



2009
年度

明治大学 学習支援報告書



学習支援推進委員会



CONTENTS

はじめに・学習支援推進委員長挨拶	1
寄稿文「セーフティネット」から能動的支援へ	2
各学習支援室の活動	5
英語未習留学生に対する補習授業	10
入学前教育	11
「フォローアップ講座」(補習講義)	13
スポーツ入学者対象学部横断授業	16
体育会所属学生への「授業出席確認カード」の実施	17
広報活動	18
2010年度へ向けて	19
【資料】	
学習支援推進委員会名簿	25
各学習支援事務室支援時間割	26
参考資料等一覧	33
各学習支援室利用統計	37
あとがき	40

はじめに

2005年7月、本大学及び各学部の教育理念実現と教育目標の達成のため、学習支援推進委員会が設置されました。これは、近年の入学選抜の多様化及び学生の多国籍化により、これまでの統一的・全体的な学習指導では十分対応できていない状況を改善し、学生個々の多様なニーズに対して、柔軟でかつきめ細かい学習指導が必要となっていたためです。

2005年度後期からは、学生の学習意欲の喚起と資質の向上を図るため、駿河台・和泉・生田の各キャンパスに「学習支援室」を開設し、学習支援の具体的な取り組みを始めました。助手及びTAによる学習相談、レポート作成指導、論文指導、進学相談等を行った結果、各学習支援室において利用する学生が増加しています。特に大学の授業に途惑っている1年生にとっては心の拠り所となり、学生にとっては必要不可欠な存在となっております。

その他にも、「英語未習留学生に対する補習授業の実施」、「入学前教育の実施」、「補習講義（フォローアップ講座）の実施」、「スポーツ入学者横断授業の実施」、「体育会所属学生への授業出席確認カードの実施」等の取り組みにより、着実に成果が現れ始めています。これらの取り組みの対象となる学生は、様々な選抜で入学したため、一般入試の学生と比較して、授業に対する不安が大きいわけです。そのような学生のレベルアップに貢献し、グローバル化するこれからの社会でしっかりと活躍できる学生の育成を目指して学習支援に取り組んでいます。

今後も、学生にとってより良い学習支援とは何かを考え、各取り組みを検討し発展させることにより、本大学にとって意義ある存在として貢献していきたいと思っております。

学習支援推進委員会
委員長 伊藤 光

寄稿文・「セーフティーネット」から”能動的”支援へ —2年間を振り返って—

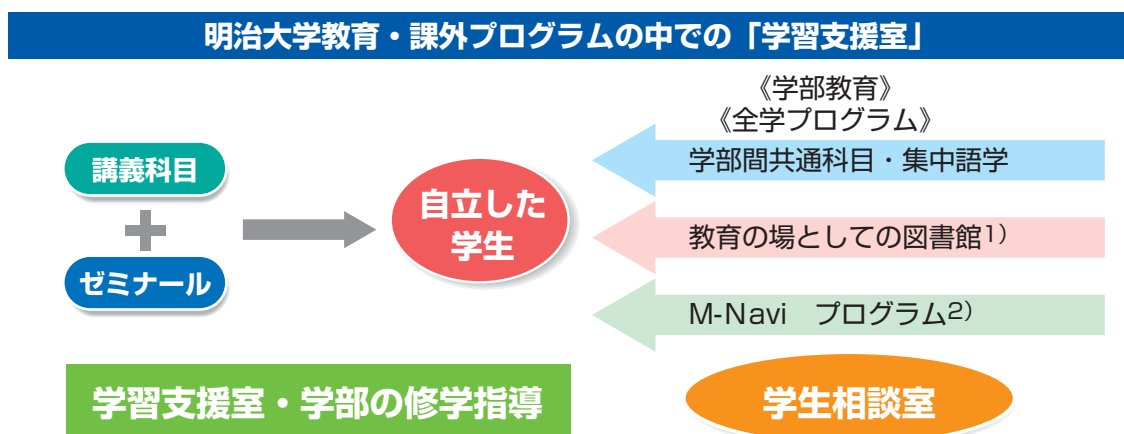
2007年度—2008年度 学習支援推進委員・商学部教授 鳥居 高

まず「告白」から始めよう。恥ずかしながら、学部の教務主任(2007～08年度)になるまで学習支援室の活動内容をよく知らなかった。1 教員として、半年ごとに行われる成績不良者に対する修学指導時に「学習支援室があるから」と学生に紹介したり、スポーツ特別入試による学生が持ってくる「出席カード」によって、その存在と活動を知る程度であった。しかし、学習支援推進委員会に加わって以降、初年次教育に関して、学外セミナーに参加したり、関西の大学での先進例のヒアリングを重ね、少しずつ感じたこと、考えたことが増え、今後の本学の学習支援の議論に材料を提供できればと今回考えた。

キャンパス版「セーフティーネット」

そもそも学習支援は、どのように位置づけられるのかについて考えてみよう。現在の大学では学生の「自主性」と「自己責任」を原則にして教育指導が行われている。時間割の作成が代表例である。学部便覧という、いわば「ルールブック」を渡し、必修、選択科目などのルールの下に、学生たちは「シラバス」というメニュー表の中から「自己責任」で講義科目を選択し、時間割をつくる。また、その一方で、大学全体からも学部間共通科目やさまざまな講座などの多彩なメニューが提供されている。それらを自分で選択し、最終的に「単位認定」、「成績表」という結果を受け取ることになる。この過程をたとえて言えば、学生には平等に「機会」を与えられ、その「結果責任」を自ら負うという市場原理のシステムである。当然のことながら、不本意な結果に終わる学生もいる。それを放置することはできないので、ちょうど社会にセーフティーネットが必要なように、学習支援室という、いわばキャンパス版「セーフティーネット」を張ることになる。

学習支援室の位置を学部教育、全学プログラムの中で示すと、図のようになるであろう。自立した学生を学部教育と全学の教育・課外プログラムによって育成し、それを学習面では学習支援室が、主に学生生活面では学生相談室がセーフティーネットとして張られている。



(注1) 平成19年文科省GP『「教育の場」としての図書館の積極的活用』を基礎に展開されている総合講座「図書館活用法」やデジタル版図書館活用法による、全学向け図書館活用に関するプログラム。

(注2) 平成17年度から文科省GPとして学生支援部が実施している学生支援プログラム。

「支援」のタイミングと重要性

問題は支援をどのタイミングで行うか、という点であろう。「早期発見・早期支援」が効果的であることはいうまでもない。学内や立命館大学の調査でも、「1年生の前期に躓いた学生への支援」が一番効果的であることがわかっている。高校生から大学生となり、何らかの理由で「躓いてしまった」学生に対して、その原因を発見し、取り除くことで、後期から単位修得が改善されてくる。商学部では前期成績不良者への修学指導を9月から10月に行っている。躓いた学生の理由を見ると、①アルバイト中心の生活パターンに陥ってしまった、②友達ができず、クラスで孤立した、③初めて勉強した外国語についていけなくなった、④講義ノートの取り方や勉強の仕方がわからない、等が大きな理由である。このことから考えると、③や④の原因を解決するには早期（＝躓いた時に）での支援が有効であろう。

DVDによる支援効果の「見える化」

「躓き」を自覚し、学習支援室へ足を運ぶ学生は問題がない。深刻なのは足を運ばない、あるいは原因を解決しようとしめない学生たちである。また、そもそも学習支援室の存在と内容、特に支援方法やその効果が知られていないことであろう。1つの方法は、支援の方法やその効果を「DVD」等の映像の形で学生や教員・学部窓口の事務スタッフに周知してはどうだろうか。学習支援室へ行くとどのような方法で、またどのような内容の支援を受けられ、その結果「自立」できていくのかについて、知ることで送り出しやすくなる。専任教員のみならず、特に兼任の先生方への具体的な周知が特に必要となる。これまで兼任の先生方に「学習支援室というものがあり…」と説明すると、一様に驚きを持って受け止められているのが現状である。

学習支援から教育現場へのフィードバック

学習支援を効果的に進めていく上で、次ぎに難しい問題は、フィードバックであろう。支援室では、なぜ「躓いたのか」という理由がわかっても、それを学部教育、特に個々の教員にまでフィードバックするという仕組みが現時点では確立していない。また確立しようとしてもなかなか難しい。今後、「一般化」という形などで、学生の躓きの理由やパターンを学習支援室から教育現場に効果的に戻すプロセスの構築の検討と導入が必要であろう。

支援者の「支援」の必要性

さて、もう1つの課題は支援者の「支援あるいはトレーニング」の必要性である。これまで教わる側であった学生が立場をかえて「教える側」に回ると、教えることの難しさを認識したり、教えるコツを掴むなどの効果があるという。また、年齢が近いことや自分の経験を踏まえることから、支援が非常に上手な院生も多いと聞く。しかし、同時に支援者の教育手法の向上も必要となってくる。少々例が異なるが、同志社大学のある学部では、学部1年生向けのリテラシー教育や導入教育を担当する者は、教え方や具体的なプログラムの情報交換会を年に数回行い、効果的な方法やプログラム、情報の蓄積を行っているという。こうした作業を通じて、「支援に関するプログラム」の経験値が蓄積されていけば、より効果的になるのではないだろうか。

スポーツAO入学生と出席カード

学習支援室のもう1つの大きな活動であるスポーツ学生の出席カードの活用について触れておこう。毎回の講義が終了すると、スポーツ入学生がカードを手にしてサインを求めにくる。しかし、彼らの表情は晴れやかではない（教員として、もちろん理由はわかっているつもりである）。一方、カードを受け取った教員もそのカードに眉をしかめ、表情を曇らしてしまうことが多い。「3行」の講義メモ欄にきわめておざなりなメモしか書かない学生が多い。その文字は「書けばいいんでしょう」と言わんばかりの文字で、言外の気持ちさえ現れている学生もいる。「今日の授業は本当にここがポイントか」と尋ねると、大半の学生はポイントか否か、ということと関係なく欄を埋めているにすぎないことがわかってきた。

そこで①まず、本日のポイントを確認し、ポイントを3つ書くことを指示、②2回目以降は、ポイントを書いているか、否かについて教員がさらに「コメントする」ことを実行している。つまり、彼らにとっては、毎日が「3行欄の小テスト」のようなものである。翌週から「ここがポイントだと思います」と書いてきた学生に対して、「合格」、「半分合格」、「だめ」などと判定を下し、コメントを付すのである。「敗退」する学生もちろん出てくる。しかし、そこはスポーツ選手である。「今日はどうですか?」、「自信ありますよ」、「リベンジですよ、先生」などと、3回目以降それなりに楽しそうにカードをもって来るようになった。こうすれば、しめたものである。カードにポイントが書けるようになった学生たちは大概、単位認定をうけ進級していく。

能動的「学習支援」の試み

さて、最後に「能動的支援」という学習支援について触れたい。躓く学生、成績不良の学生だけではなく、もう一種類の学生グループが存在する。やる気はあるが、学問の森の「歩き方」がわからない学生である。成績優秀者、成績不良者の間に位置する、いわば学生の「中間的な」層の学生である。こうした学生への「能動的支援」が必要ではないか。「言われたことはきちんとこなす、しかし、積極的ではない」、あるいは動き方がわからない学生たちに「ナビ」という形で学習支援を行うことは必要ではないか。それを能動的学習支援と呼ぼう。1つの試みとして、商学部では教員の推薦図書リスト『知の森へ』を作成し、2008年から、毎年発行している。読書リストという『ナビ』で森の歩き方を示そうという試みである。

学習支援室の活動を通じて、学生にどう伝えるか、教育するかということを考えさせられ、私が学習「支援」をもっとも受けた2年であった。



駿河台学習支援室の活動

駿河台キャンパスの学習支援室は、リバティタワーの7階にあり、図書館検索用パソコンやノートパソコン、各学部及び大学院の便覧・シラバス等を常設し、学生に対応している。

2009年度の駿河台学習支援室の体制は、教務事務所属のTA10名、商学部TA・助手11名、文学部TA・助手19名、経営学部助手4名、情報コミュニケーション学部TA1名の総勢45名が、月曜日から金曜日までの授業実施日に運営にあっている。特に、教務事務所属のTAについては、学部間共通総合講座の授業補助に対応できる体制で勤務している。

これらの勤務体制については、大学ホームページの他、学習支援室前、2階の教務課掲示板等に掲示している。

1. 主な支援及び相談内容

- (1) 論文（卒論・ゼミ論）指導について
- (2) 修士論文指導について
- (3) 授業科目に関する質問について
- (4) 大学院の進学について
- (5) レポート作成について
- (6) 留学について
- (7) 大学院進学について
- (8) 語学の学習方法について

2. 学習支援の一環として行なっている業務

- (1) スポーツ特別入試入学者に対する「授業出席確認カード」の取扱い
- (2) 「学部間共通総合講座」における教務事務所属TAによる授業補助
- (3) 英語未習留学生に対する補習授業の対応
- (4) 教室操作卓に不慣れな講師への、使用方法についての支援

3. 学習支援室利用状況

2006年～2009年度の月別利用者数は、次のとおりである。

年度	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
2006	21	27	18	14	2	17	5	16	8	128
2007	23	11	31	25	10	27	7	10	10	154
2008	10	17	34	24	7	25	10	16	7	150
2009	15	31	35	24	8	34	38	23	14	222

以上、今後も様々な要望を取り入れ、学生にとって必要な支援を実施していくことに力をいれていきたい。

和泉学習支援室の活動

1. 主な支援及び相談内容

- (1) 図書館活用の実地指導
- (2) 留学生レポート添削・指導，一般学生レポート指導
- (3) 授業でわからないところの質問
- (4) 授業の予習
- (5) 留学相談（アメリカ，ドイツ，イギリス）
- (6) PCの使い方（レポート作成指導）
- (7) 英，独，仏，中の発音，文法などの指導
- (8) 各種検定準備アドバイス
- (9) ゼミ等の発表レジュメ作成アドバイス
- (10) ゼミの選び方（就職，今後の進路など含めてアドバイス）
- (11) 勉強方法のアドバイス
- (12) 転部編入試験の勉強方法
- (13) 大学院，専門職大学院等への進学相談
- (14) 資格取得に関するアドバイス（教職，学芸員）
(学習支援スタッフ「業務報告日誌」より抜粋)

2. 学習支援の一環として行なっている業務

- (1) 「教員用レファレンス」機能の設置
これは授業等で配布する資料，参考文献などを和泉学習支援室に置き，予習あるいは欠席者などに供する機能である。本年度は3名の教員の利用に留まった。
- (2) スポーツAO入学生の授業出席確認カードの取り扱い
- (3) 学習支援に必要な辞書，辞典，地図資料，参考書の購入・管理
- (4) 留学生の基礎英語
- (5) 留学関連については，当該部署からの資料の提供を受け，配付。語学検定受験支援としてドイツ語，フランス語，中国語の各検定申込書を各検定協会より取り寄せ，配布した。
- (6) 若干の保護者からの電話相談受付
- (7) 他大学学習支援室開設準備担当教員および職員の見学，ヒアリング。(2件)
- (8) 事務補助として2007年度後期より「杉並区シルバー人材センター」からのスタッフが，交代で勤務している。1，2年生が在籍する若いキャンパスの中の和泉学習支援室にとって，暖かい雰囲気創りにたいへん有用なスタッフである。
- (9) 広報活動として時間割ポスターを作成し，キャンパス内に掲示および配布している。

3. 学習支援室利用状況

2006年～2009年度の月別利用者数は，次のとおりである。

年度	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
2006	37	130	122	80	6	42	46	44	10	517
2007	49	95	204	253	39	107	127	126	102	1102
2008	39	106	257	221	9	68	101	63	90	954
2009	30	113	171	153	13	104	110	111	79	884

理工学部学習支援室の活動

1. 主な支援活動及び相談内容

理工学部の学習支援室（学習支援センター）は、本学部の学部執行部、各学科及び総合文化教室から選出された教員で組織する教学委員会が管轄し、理工学研究科各専攻に所属するT Aを主体として、学部学生に対して多様できめ細かい学習支援活動を実施している。開設当初は、定員の約3割を占める特別入学試験（指定校、スポーツ、留学生、AO等）からの入学生支援が中心であったが、現在では一般学生の利用率が高まっている。質問事項についても、数学等の理系基礎科目に関する内容が中心であるが、学科専門科目に関する事項も増えており、多くの学生の多様な学習課題に対応している。

学習支援室（学習支援センター）の質問事項、利用状況等は専従の職員がとりまとめ、これをデータ化している。このデータは定期的に教学委員会へ報告され、教学委員が担当学科の支援活動状況を確認し、恒常的に改善を進めている。この学習支援室（学習支援センター）の活動は、2007年度に実施された大学基準協会による実地視察及びJ A B E E中間審査でも高く評価されている。

2. 学習支援室の利用状況

2006～2009年度の月別利用者数は、次のとおりである。

年度	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
2006	212	217	249	241	24	95	103	52	108	1301
2007	131	291	354	424	46	199	103	74	171	1793
2008	113	266	272	381	14	171	115	53	164	1549
2009	114	251	273	470	15	111	130	92	199	1655

2009年度においては、下級年次の学生の来室が集中する前期及び後期の試験期間において、T Aの配置を、通常の配置時間に加えて臨時の応援体制を編成し、利用者の増大による混雑の緩和及び支援内容の低下の防止を図った。



農学部学習支援室の活動

農学部では、「農学部学習支援委員会」（委員長：教務主任）のもと、以下のプログラムを中心に多様な学習支援活動に取り組んでいる。

- (1) 「農学部学習支援室」の運営
- (2) 「フォローアップ制度」（学習相談制度）
- (3) 「フォローアップ講座」（補習講座）
- (4) 「入学前教育課題」
- (5) 「授業出席確認カード」

1. 主な支援活動及び相談内容

「農学部学習支援室」は、2005年度後期に全学的学習支援の一環として、第一校舎1号館3階に設置され、スタッフが常駐する「学習相談室」（旧135教室）と、多目的に利用できる「フォローアップ室」（旧136教室）の2室から構成される。「学習相談室」には、明大サポート派遣スタッフ1名とT A 2名が常駐し、月曜から金曜、午前11時から午後6時まで学生対応をしている。

「フォローアップ室」は、多人数での学習相談の他、補講やゼミ教室としても利用され、平日の空き時間および土曜日は自習室として有効に活用されている。

2. フォローアップ制度（学習相談制度）

農学部では、多様な学力の入学者に対応するため、教員・職員・T Aの協力により、恒常的に学習相談・アドバイスを行う「フォローアップ制度（学習相談制度）」を導入し、年間を通じて「農学部学習支援室」にて実施している。

対象者は、スタッフ数の制約のため、当初は特別入試入学者に限定していたが、T A増員により、現在は一般入試入学者へも拡大、以下の通り実施している。

フォローアップ実施体制

月曜日	生命科学科／食料環境政策学科
火曜日	農芸化学科／食料環境政策学科
水曜日	食料環境政策学科
木曜日	食料環境政策学科
金曜日	農学科

相談内容は、履修計画の立て方・レポート作成方法から、研究室の選択・大学院への進学相談まで、レベル・内容とも多岐に渡る。通常はT Aが対応し、必要に応じて教職員へ取り次ぎ、指導・支援に当たる。

農学研究科生であるT Aと常に接点を持つことで、学生の目線に近い木目細やかな指導が行われ、問題の早期発見にも繋がっている。

当制度での指導・支援期間は、2年次終了時までの2年間を原則とし、3年次研究室入室以降

は各指導教員がこれを引き継ぐ。

この中で食料環境政策学科は、スポーツ入試およびAO入試入学者が多いことなどから、教員・TAが特別入試入学者一人一人に対する指導責任者として配置され、実情に応じた指導を行っている。これにより、学力不足者への補習的指導にとどまらず、学習意欲の高い学生に対しては発展的な指導・支援が可能となった。この制度で指導を受けた学生が、外部懸賞論文（神奈川産学チャレンジプログラム、ヤンマー学生懸賞論文等）に応募、入選を果たすなど、成果を上げている。

3. 学習支援室利用状況

2006年～2009年度の月別利用者数は、次のとおりである。

年度	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
2006	35	158	145	176	18	147	71	72	158	980
2007	124	160	166	330	29	175	160	126	224	1498
2008	120	158	168	242	16	103	117	90	197	1211
2009	200	112	145	180	23	126	143	100	84	1113

4. 今後に向けて

定期的に学習支援室を利用する学生が増加した反面、利用者の固定化も生じており、一層のPR活動が今後の課題となっている。学習支援室HPの充実や掲示等で周知に努めたい。

また、スポーツ入学者については、「体育会所属学生ガイダンス」等で学習支援室の利用を促すものの、現状では少数にとどまっている。今後は、各所属運動部や関連部署の一層の理解と協力が求められる。また、学部としては彼らの実情に応じたプログラムの検討も必要と思われる。

多様な入学者のニーズに対応し、より効果的な学習支援プログラムを提供するため、学習支援室の利用状況を詳細に分析することが必要である。得られたデータを農学部学習支援委員会や各学科にフィードバックして、常に改善を試みていきたい。



英語未習留学生に対する補習授業

留学生の中には、英語が未習であったり、英語の学習が不足して授業についていけない学生が存在することが現状としてあり、2005年度本講座を開講した。和泉キャンパスにおいて、外部講師による補習授業を週2コマ実施し、2006年度後期からは、駿河台でも週1コマ実施した。特に駿河台の受講生には、学部生だけでなく大学院生も含まれていた。しかしながら、2008年度からは上記のような留学生が減少したものと推測できる。

2009年度は、駿河台、和泉において各1コマ開講した。

受講者数（駿河台、和泉合計数）

年度	法	商	政経	文	経営	情コミ	国日	院生	合計
2005	1	3	2	0	1	0	0	0	7
2006	2	6	6	1	6	3	0	9	33
2007	2	5	11	6	1	0	0	15	40
2008	0	1	4	4	3	0	2	7	21
2009	0	0	2	2	1	0	3	7	15



入学前教育

理工学部

1. 概要

理工学部では、2003年度から、スポーツ入試、AO入試及び留学生入試による入学者に対して、課題添削指導による入学前教育を実施している。

指導方法としては、数学、英語に関する基礎的な問題を対象学生に郵送し、学生は所定の期限までに解答し、これを返送する。出題から添削（未提出の場合の督促等も含む）までの実質的な対応は、外部専門業者に委託し、学部は後日委託業者から提出された詳細なレポートを入学後の学習指導に利用している。

2. 2009年度の実施状況

入学前教育の対象学生は約100名である。第1回の問題送付は12月初旬に行うが、このうち留学生は入学試験が1月に実施されるため、入学前教育は2月からのスタートとなる。

委託業者からは、対象学生からの回答率は9割を越え、しかも熱意をもって対応していることが報告されている。また、高等学校側の適切な対応も学習効果を高めている。

学習内容については、本学の担当教員が監修し、要望・改善事項を業者に伝え反映させている。

学力に課題を持つ入学者たちに学習意欲を起こさせ、学習習慣を持たせるこの入学前教育は非常に効果がある。ただ、予算の関係から、入学が早く決まってしまう目標を見失いがちな指定校入試による入学者まで対象とできないのが課題となっている。

3. 今後に向けて

課題添削指導による入学前教育については、学部が責任を持ち、主体的に実施する必要がある。しかし現行において、学部が全ての業務を負うには体制が未整備であり、外部専門業者と連携する方式が、現在のところ最も適切な方策であると考えている。

農学部

1. 概要

AO入試・公募生特別入試導入後、一般入試入学者との学力差是正や、入学までのモチベーション維持等を目的として、農学部では特別入試合格者に対し2002年度より「入学前教育」を実施している。

導入当初は英文和訳と課題レポートを実施、毎年の見直しを経て、現在は各学科が共通課題と学科別課題を必要に応じて設定している。

2. 2009年度の実施状況

学 科	共通課題	学科別課題
農 学 科	英語通信添削	課題図書レポート，英文和訳，課題ノート作成
農芸化学科		課題図書レポート
生命科学科		学習日誌・ノート作成
食料環境政策学科		課題図書レポート，英検またはTOEIC受験

2009年度の学科別実施状況は、上記のとおり。このうち、「英語通信添削」については、全学的学習支援の一環として、理工学部と共同実施しており、合格から入学までの間に計3回の課題提出がある。2009年度の提出状況は100%である。また、「課題図書レポート」等その他の課題の提出状況も例年9割を超える。

特に食料環境政策学科では、提出されたレポートに毎回教員の講評を付して返却している。これは学習面のみならず、教員と特別入試合格者との信頼関係を早期に構築して入学後の指導を円滑なものにするという効果も生んでいる。

3. 今後に向けて

これら「入学前課題」の実施は、「フォローアップ講座（補習講座）」とともに学習課題の発見や学習意欲の維持・向上に効果を上げている。その反面、担当教員の負担は多大なものとなっており、対応策として、担当TAの勤務時間増や嘱託職員活用のための予算措置が望まれる。

文系学部

文系学部では、商学部が多様化する入学形態の学生に対し、学習動機付けの維持・強化を図り、入学後の目標設定や履修計画に役立たせることを目的に、2008年度から入学前教育の導入を決めた。

2009年度は指定校推薦入試・商業高校指定校入試・公募制特別入試等とスポーツ特別入学試験学生用と2種類、合計385名分の英語の課題とレポートの課題作成・添削を行なった。

今後は、毎年の学習効果を確認しながら、実施方法等を検討していきたい。



補習講義「フォローアップ講座」

理工学部・農学部

入試形態の多様化等により、新入生の習熟度や高校での履修分野に個人差が目立つようになったことから、理工学部と農学部は連携して補習講義「フォローアップ講座」を実施している。この講座は、高校基礎レベルを短期集中で学び、学部の講義に円滑へ移行することを目的とし、「英語」「数学」「生物」「物理」「化学」の計5科目を開講している。対象は主として特別入試入学者（スポーツ入試、指定校入試、AO入試等）であるが、一般入試入学者も受講可能である。各講義は学生が各自の必要に応じて受講できるよう、一回完結スタイルをとっている。対象者には、掲示・HP・郵送通知（特別入試入学者のみ）にて各回の内容をあらかじめ周知し、積極的受講を促している。受講者は参加費・教材費等の負担は一切ない。

担当講師は、学部の所属教員の負担増を防ぐため、予備校および明治大学附属中野高等学校に委託している。初回からの実施概要は、【表1】のとおりである。

この講座の学習効果を分析し、受講者の要望を今後に反映させるため、各科目の最終講義時にアンケートを実施している。

受講者の学習意欲は総じて高く、内容も概ね好評である。その一方、受講者が大幅に増加し、それに伴い習熟度の差が顕著となり始めた。

このため、理科科目は高校での未履修者にとって難易度が高いことから、2009年度より「化学」を習熟度別の2コース制として実施した。（【表2】2009年度理科科目時間割参照）また、英語については、よりきめ細かい指導により学習効果を高めるため、2010年度より理工学部と農学部を別クラスとして実施することを決定した。

今後は、上級クラスも含めた習熟度別講義の拡大、経費等も含めての運営方法の検証、「補習」の位置づけの再検討が求められる。

■【表1】「フォローアップ講座」実施概要

	開講年度	実施科目／講義担当	実施コマ数
①	2004年後期 (11～12月)	「化学」「生物」「物理」 城南予備校	【各6コマ】
②	2005年前期 (6～7月)	「英語」「数学」「化学」「生物」「物理」 城南予備校	【各8コマ】
③	2005年後期 (11～12月)	「英語」「数学」「化学」「生物」「物理」 城南予備校・駿台教育研究所・附属中野高等学校	【各8～12コマ】
④	2006年前期 (4月)	「英語」「数学」「化学」「生物」「物理」 駿台教育研究所・附属中野高等学校	【各5コマ】
⑤	2006年後期 (9月)	「英語」「数学」「化学」「生物」「物理」 駿台教育研究所・附属中野高等学校	【各4コマ】
⑥	2007年前期 (4月)	「英語」「数学」「化学」「生物」「物理」 駿台教育研究所・附属中野高等学校	【各5～6コマ】
⑦	2007年後期 (9月)	「英語」「数学」「化学」「生物」「物理」 駿台教育研究所・附属中野高等学校	【各4～6コマ】
⑧	2008年前期 (3～4月)	「英語」「数学」「化学」「生物」「物理」 駿台教育研究所・附属中野高等学校	【各6～10コマ】
⑨	2009年前期 (3～4月)	「英語」「数学」「化学」「生物」「物理」 駿台教育研究所・附属中野高等学校	【各9～12コマ】

※2008年度より、後期は実施せず。

■【表2】2010年度理科科目時間割表

生 物

日程	講数	講義内容	
4/10(金)	1 講目18:00	細胞と生体成分 (1)	生体成分
	2 講目19:00	細胞と生体成分 (2)	細胞の構造, 細胞分裂概論
4/15(水)	3 講目18:00	遺伝情報の発現 (1)	DNAの複製
	4 講目19:00	遺伝情報の発現 (2)	タンパク質合成
4/17(金)	5 講目18:00	代 謝 (1)	同 化 (1)
	6 講目19:00	代 謝 (2)	同 化 (2)
4/22(水)	7 講目18:00	代 謝 (3)	異 化 (1)
	8 講目19:00	代 謝 (4)	異 化 (2)
4/24(金)	9 講目18:00	恒常性 (1)	生体防御等
	10 講目19:00	恒常性 (2)	ホルモンと自律神経
4/28(火)	11 講目18:00	バイオテクノロジーとその利用 (1)	DNAの増幅等 (又は, 上欄詳細説明) (1)
	12 講目19:00	バイオテクノロジーとその利用 (2)	DNAの増幅等 (又は, 上欄詳細説明) (2)

物 理

日程	講数	講義内容	
4/10(金)	1 講目18:00	物体の運動	単位系, 有効数字, 速度, 加速度, 落下運動
	2 講目19:00	力と運動	フックの法則, 圧力, 力の合成・分解
4/15(水)	3 講目18:00	運動方程式	摩擦, 力のつり合い, モーメント, 仕事
	4 講目19:00	仕事とエネルギー	運動・位置エネルギー, 運動量保存の法則
4/17(金)	5 講目18:00	電場と電位	クーロンの法則, 電気力線, 等電位線
	6 講目19:00	コンデンサー	平行板コンデンサー, 静電エネルギー, 接続
4/22(水)	7 講目18:00	電流と直流回路	電力とジュール熱, 抵抗の接続, キルヒホッフの法則, ホイートストンブリッジ
	8 講目19:00	磁 場	磁界の強さ, ローレンツ力
4/24(金)	9 講目18:00	波と音	正弦波, 屈折・反射, 気柱の共鳴, ドップラー効果
	10 講目19:00	光	レンズ, 回折, ニュートンリング
4/28(火)	11 講目18:00	熱と温度	絶対温度, 熱量保存の法則, ボイル・シャルルの法則, 熱力学
	12 講目19:00	単振動と万有引力	円運動, 単振り子, 宇宙速度

化 学(基礎コース)

日程	講数	講義内容	
4/9(木)	1 講目18:00	物質の構成(1)	電子配置, 周期律
	2 講目19:00	物質の構成(2)	物質量(モル), 化学反応式とその量的関係
4/13(月)	3 講目18:00	物質の変化(1)	化学反応と熱
	4 講目19:00	物質の変化(2)	酸と塩基
4/16(木)	5 講目18:00	物質の変化(3)	酸化還元反応
	6 講目19:00	物質の変化(4)	電池と電気分解
4/20(月)	7 講目18:00	無機物質の性質	無機物質(概略)
	8 講目19:00	有機化合物の性質(1)	有機化合物の特徴と構造
4/23(木)	9 講目18:00	有機化合物の性質(2)	酸素を含む有機化合物
	10 講目19:00	有機化合物の性質(3)	芳香族化合物
4/27(月)	11 講目18:00	物質の構造	気体の状態方程式(又は有機化学の演習)
	12 講目19:00	化学平衡	反応速度(又は有機化学の演習)

化 学(初級コース)

日程	講数	講義内容	
4/9(木)	1 講目18:00	物質の構成(1)	物質の構成粒子, 原子の構造, 原子の電子配置, イオン
	2 講目19:00	物質の構成(2)	原子量, 分子量, 式量, 物質量(モル)
4/13(月)	3 講目18:00	物質の構成(3)	化学反応式とその量的関係
	4 講目19:00	物質の構造(1)	化学結合(共有・イオン・金属結合)
4/16(木)	5 講目18:00	物質の構造(2)	溶液の性質, 溶液の濃度
	6 講目19:00	物質の変化(1)	化学反応と熱
4/20(月)	7 講目18:00	物質の変化(2)	酸塩基反応と水素イオン濃度
	8 講目19:00	物質の変化(3)	中和反応と塩
4/23(木)	9 講目18:00	物質の変化(4)	酸化還元反応, 電池と電気分解
	10 講目19:00	物質の変化(5)	金属イオンの分離と確認
4/27(月)	11 講目18:00	有機化合物の性質(1)	有機化合物の特徴と性質, 分類
	12 講目19:00	有機化合物の性質(2)	脂肪族・芳香族炭化水素

スポーツ入学者対象学部横断授業

スポーツAO入学者に対し、進級・卒業をスムーズにするため、受講地区、受講時限をフレキシブルに選択できるよう学部間共通科目として2006年度から開講されているのが「スポーツ語学」である。具体的には、自学部の一般開講語学科目では、練習、試合、遠征などが理由で受講し続けるのが困難な場合、どの学部の授業も履修できるこの「スポーツ語学」を受講し、自学部の科目とすることができる。

上記の趣旨による開講のため、履修者数が少人数であっても開講している。

2009年度スポーツ入学者対象語学履修者数一覧

英語	情コミ	政経	政経	政経	政経	政経	商	経営	文	文
曜日時限	火1	火4	火5	火5駿	水1	水1	水2	水5	木1	木2
開講期	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後
履修者数	18 18	5 40	39 0	0 10	39 40	27 27	32 32	38 38	47 47	

英語	理工	理工	商	国日	法	法	政経	経営	合計	
曜日時限	木4生	木5生	金1	金4	金4	金5	金5	金5		
開講期	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後
履修者数	4 4	9 8	28 28	9 9	29 29	30 30	41 42	27 27	428	423

ドイツ語	商	法	法	文	理工	理工	経営	経営	文	文	合計	
曜日時限	月1	月1	月4	月4	月5	火1	水4	火2駿	火1	木4		
開講期	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後
履修者数	5 5	14 14	5 8	5 5	2 1	1 3	19 21	20 19	8 8	7 7	86	91

フランス語	理工	理工	文	文	経営	経営	合計	
曜日時限	月2生	月3生	月3	火4	金5	金6		
開講期	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後	
履修者数	4 5	1 1	1 1	3 3	8 9	13 13	30	32

中国語	法	政経	商	商	商	商	商	政経	法	経営	経営	合計	
曜日時限	月1	月1	月4	月4	月5	火1	水4	火2駿	火1	木4	木5		
開講期	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後
履修者数	42 42	37 36	41 41	28 27	37 38	40 38	33 33	0 0	27 27	25 26	21 20	331	328

体育会所属学生の「授業出席確認カード」の実施

スポーツ技能重視入学の学生は、往々にして練習、試合、遠征など所属の競技部行事を重視する傾向にあり、授業への出席が軽視される。これら学生への意識改革を目的として2007年より授業出席を確認するため本カードの実施を始めた。

「授業出席確認カード」は1科目につき1枚が必要で、毎回、簡単な講義内容を記入後、担当教員のサインをもらい、ひと月に1回は学習支援室へ行き確認印をもらう事を原則としている。（※農学部は任意。）このことが、出席を促すと同時に講義内容への理解にもつながり、授業参加への動機付けとなっている。

半期ごとに学習支援室に「授業出席確認カード」を提出する際には、控えとして「授業出席確認カード受領書」を渡し、提出カードに間違いのないようにしている。提出された「授業出席確認カード」は、部別・学部別・学年別に集計し、資料として今後の学生指導に活用していただくため、各部の監督及び部長に送付している。

授業出席確認カード提出の推移

	対象数	合計
2006年度 前期（政経・理工学部を除く）	534名	49%
2006年度 後期（政経・理工学部を除く）	534名	30%
2007年度 前期（政経・理工学部を除く）	560名	43%
2007年度 後期（政経学部を除く）	598名	30%
2008年度 前期（政経学部を除く）	628名	39%
2008年度 後期（政経学部を除く）	627名	27%
2009年度 前期（政経学部を除く）	648名	37%
2009年度 後期（政経学部を除く）	648名	25%

提出率で分かるように、前期より後期の提出が悪く、また、全体的にも年々提出が減少している。原因としては、全学的な体制で実施されていないため、同じ部のスポーツ入学生の中にも実施する学生としない学生が存在すること等が考えられる。

今後は、「授業出席確認カード」のあり方や実施方法等も含めて検討する必要がある。

広報活動

2005年後期に各地区の学習支援室が開設されたことに伴い、内外に周知を図るため、2006年4月に明治大学ホームページに「学習支援室」を開設した。内容としては、概要・利用案内・学習支援プログラム・自習教材・駿河台学習支援室・和泉学習支援室・生田学習支援室（理工学部）・（農学部）に分かれており、各学習支援室の支援内容や時間等の紹介を掲載している。

このホームページ開設と並行して行ったのがリーフレットの作成で、担当者が手づくりで3,000枚用意した。

2007年度については、内外向けの学習支援パンフレット作成のため、各学習支援担当者の協力で原稿を作成し、パンフレットのデザイン等を業者に依頼して、20,000部を作成した。このパンフレットは各地区の各学部配置するだけでなく、新入生のガイダンス、留学生の説明会、父母説明会等に配布していただき、新入生へのPRが拡大した。

2008年度についても、若干修正を加えて10,000部作成し留学生の説明会等に配布し、周知を図った。

更に、2007年度からは「学習支援報告書」を作成し、2008年3月に全教職員に配布し、広く学内に学習支援の活動を周知することとなった。この報告書は、毎年作成している。2009年度版のこの報告書が3冊目にあたる。

この報告書は外部からの訪問者等にも資料として配布しており、明治大学の学習支援活動が1冊で解るようになっている。

以上、様々な広報活動を実施しているが、学生による口コミや教員による周知等の方が効果があり、学習支援室の利用に繋がっているように思われる。

2010年度へ向けて

駿河台

文系6学部の学習支援の役割を担ってきた学習支援室だが、駿河台地区では授業の教室が不足している等の諸事情のため、文系の学習支援の役割は主に学部の1・2年生が所属する和泉校舎に集中させる事となった。2006年から4年間という短い期間ではあったが、十分に学習支援室の存在を大学内外に知らしめ、駿河台地区の役割は果たしたと思われる。今後は和泉、生田地区の利用者が増えることを期待したい。

スポーツ入学者学部横断授業については、2008年度から各学部のご理解をいただき、科目設置学部間での履修になっていたものを、英語1コマでも設置していれば、他の語学であるドイツ語・フランス語・中国語についても履修できることとなった。

開設している全ての語学でコマ数が増え、これらの授業についての必要性が高まっている。

また、今まで生田地区の理工学部と農学部のみが実施していた「入学前教育」を文系学部では商学部が導入を開始した。

今後は文系学部における「入学前教育」のあり方について、検討していきたい。

和泉

2008年度年後期以降、地階での開室となっているため、利用者が減少済みであった。2009年度には「就職キャリア支援事務室」が同じ地階にオープンして学生の地階フロアへの誘導に有利になると思われたが、後期に1階フロアへ移転となってしまった。そのため、地階という悪条件は恒常的なものとなっている。しかしながら、5年間の実績を元に着実に知名度を上げてきており、2010年度は、利用者の数も上がるものと思われる。

個別学習支援のほかに、施策としては、今後も以下のことを継続して拡充してゆきたい。

- ◆キャンパス内掲示等による広報
- ◆教職員への支援時間割の周知
- ◆教員へのオフィスアワーの利用を促進する広報
- ◆利用者等のアンケートの実施
- ◆父母会、オープンキャンパス等での保護者への広報
- ◆その他

地下への移転で手狭になった和泉学習支援室ではあるが、実績を積み上げ、和泉キャンパスのグランドデザイン構想の中で、より良い支援環境を要求できる基盤をつくりたい。

また、学習支援実施日について、2008年度から引き続き、定期試験中の開室など、授業実施日以外の学習支援活動も模索したい。

理工学部

学習支援についての課題はいくつかあるが、2010年度については「学習支援室（学習支援センター）の支援体制の強化」及び「留学生への対応改善」を優先して検討したい。

1. 学習支援室（学習支援センター）の支援体制の強化

本学部の学習支援活動の中心的役割を担っているのは、全学部に先駆けて発足させた「学習支援室（学習支援センター）」である。2004年度から活動を開始し、ここ数年の同センター利用者数は、前期中だけで1,000名を超えている。特に基礎数学については、下級年次の学生が頻繁に来室し、一時的に担当T Aの時間数を増加させて対応する措置が必要であるほど利用率が高い。また、カリキュラムとの連携が強まった結果、学科専門科目の需要も増大している。

このため、2008年度以降は、電気系、機械系、建築、応用化学及び情報の6学科において、専門科目の時間数を各2時間増加することを決定し、さらに必要に応じて専任助手を配置できるように、学部内規程を改正した。

さらに、2010年度においては、2009年度に試験的に実施した、学生の来室が集中する前期及び後期の試験期間での、T Aの応援体制の恒常化をはかることにより、利用者の増大による支援内容低下を防止し、通常時と同等の支援が行われるようにしたい。

2. 留学生への対応改善

留学生への学習支援については、留学生の受入れから卒業まで、学部としての支援体制を根幹から再構築する必要がある。特に入学後における学生生活支援を含めた総合的支援が必要である。これには人的な支援、予算面での対応等多岐に亘る課題であるが、2010年度においては、理工学部が必要と認めた留学生に対するチュータ配置の予算化が認められた。このため、国際連携部との連携を強化してチュータ配置の検討を行い、対応できるものから順次対応していきたい。

農学部

農学部の学習支援は、2002年度の制度導入以降、改善を重ねてきているが、今後もより良い学習支援策の実施に向けて、(1) 制度 (2) 内容の両面で、継続的に改善に取り組んでいく必要がある。

- (1) 成績不振者の中にはメンタル面や経済面での問題を抱える者も見られる。これまでも学生相談室や学生支援事務室との連携の中で対応してきたが、今後は「学習支援推進委員会」、学部および各関係部署間の連携を一層強化するとともに、他大学との情報共有や外部機関等での研修についても積極的に取り組むべきと思われる。また、業務に通じた専任の担当職員の配置についても、早急な検討が求められる。
- (2) 新入生のモチベーションの低下、目的意識の無い学生の増加が顕著となりつつある。本来に支援が必要な学生が学習支援室や学部事務室を訪れず、やがて大学から足が遠のく例も見られることから、学習面にとどまらず、いわゆる「導入教育」的内容の支援策を初期段階で実施することも検討すべきと思われる。

学生の多様化により、こちらが提供する支援策と、学生が求める支援策が必ずしも一致していないケースもある。ミスマッチの解消のためには、全学的規模でのアンケートの実施や、学習支援室利用者のデータ分析などにより、学生のニーズを詳細に分析する必要がある。

学生の要望に対し、多様なプログラムを提供する一方ではなく、自分自身で解決策を導き出す力を身に付けられるような支援策を学生・教職員一体となって作り出していきたい。

資料



学習支援推進委員会名簿

	所 属	氏 名	備 考
委員長	理工学部	伊藤 光	教務部長
副委員長	文学部	山田 朗	副教務部長
委 員	法学部	矢ヶ崎淳子	教務主任
	商学部	北田 葉子	教務主任
	政治経済学部	高橋 一行	教務主任
	文学部	伊藤 直樹	教務主任
	理工学部	長尾 憲治	教務主任
	農学部	竹本 田持	教務主任
	経営学部	大石 芳裕	教務主任
	情報コミュニケーション学部	大黒 岳彦	教務主任
	国際日本学部	姫野 伴子	教務主任
	商学部	佐藤 政光	教務部長推薦
	文学部	梶原 照子	教務部長推薦
	理工学部	浜口 稔	教務部長推薦
	農学部	田宮 正晴	教務部長推薦
	経営学部	辻 昌宏	教務部長推薦
	政治経済学部	加藤 久和	学生部長推薦
	理工学部	納富 充雄	国際交流センター所長推薦
	教務事務室	高山 茂樹	事務長
和泉教務事務室	小林 宣子	事務長	
学生支援事務室	田部井 茂	事務長	

2009年度 駿河台学習支援室時間割

【前期】

曜日	時間	担当者	内容	備考	
月	12:00～16:00	商学部TA	会計学,金融,論文指導		
	13:00～17:00	商学部TA	貿易論,世界経済論,英語,論文指導		
	15:00～17:30	文学部TA	西洋史原書講読,イタリア語,英語,教職		
	14:00～20:00	教育支援TA(文学研究科)	歴史学,レポート指導	学部間共通総合講座の補助あり	
	14:00～20:00	教育支援TA(文学研究科)	国語学,日本語学	学部間共通総合講座の補助あり	
	14:30～20:00	教育支援TA(文学研究科)	日本近代文学,論文指導	学部間共通総合講座の補助あり	
	12:00～15:00	商学部助手	国際会計論,財務会計論,論文指導		
	10:00～13:00	文学部助手	中国語		
	10:00～14:00	文学部助手	日本語レポート		
	10:00～12:00	文学部助手	日本古代史史料講読		
	12:00～18:00	文学部助手	日本語レポート,韓国語		
	12:00～16:00	文学部助手	日本古代史史料講読		
	13:00～16:00	文学部助手	日本語レポート		
	10:00～13:00	経営学部助手	経営学,経営哲学,経営倫理		
	14:00～17:00	経営学部助手	経営学,イノベーション論		
火	10:00～16:00	商学部TA	貿易論,世界経済論,論文指導		
	13:00～15:00	文学部TA	英語全般		
	14:30～16:00	文学部TA	西洋史原書講読,イタリア語,英語,教職		
	15:00～16:00/18:00～19:00	文学部TA	英語全般		
	14:00～20:00	教育支援TA(文学研究科)	英語	学部間共通総合講座の補助あり	
	10:00～16:00	教育支援TA(文学研究科)	英語,西洋史,論文指導,留学相談	学部間共通総合講座の補助あり	
	17:00～20:00	教育支援TA(文学研究科)	ドイツ語	学部間共通総合講座の補助あり	
	11:00～14:00	商学部助手	観光事業論,マーケティング,英語,論文指導		
	12:00～15:00	商学部助手	財務会計論,論文指導		
	10:00～14:00	文学部助手	韓国語		
	10:30～12:00	文学部助手	中国語	後期時間変更あり	
	12:00～15:00	文学部助手	フランス語		
	14:00～17:00	文学部助手	日本近現代史史料講読		
	14:00～16:00	文学部助手	漢文史料講読		
	15:00～19:00	文学部助手	ドイツ語		
	10:00～13:00	経営学部助手	経営学,経営史,経営戦略論		
14:00～17:00	経営学部助手	経営学,経営組織論			

曜日	時間	担当者	内容	備考	
水	10:00～13:00	教育支援TA(文学研究科)	ドイツ語,言語学,レポート指導	学部間共通総合講座の補助あり	
	10:00～16:00	教育支援TA(政治経済学研究科)	開発経済学,経済学	学部間共通総合講座の補助あり	
	14:00～20:00	教育支援TA(文学研究科)	英語	学部間共通総合講座の補助あり	
	14:00～20:00	教育支援TA(文学研究科)	英語,アメリカ史,レポート指導	学部間共通総合講座の補助あり	
	10:00～13:00	商学部助手	財務会計論,中国語,論文指導		
	13:00～16:00	商学部助手	簿記学,会計学,論文指導		
	16:00～19:00	商学部助手	広告論,論文指導		
	12:00～18:00	文学部助手	西洋史,英語読解,論文指導,奨学金関係		
	13:00～16:00	文学部助手	日本近世史史料講読		
10:00～13:00	経営学部助手	経営学,人事労務管理			
14:00～17:00	経営学部助手	経営学,マーケティング			
木	10:00～14:00	商学部TA	広告論,論文指導		
	13:00～15:00	商学部TA			
	12:00～14:30	文学部TA	文芸レポート作成		
	12:00～18:00	教育支援TA(文学研究科)	国語学,日本語学	学部間共通総合講座の補助あり	
	12:00～18:00	教育支援TA(文学研究科)	英語,アメリカ史,レポート指導	学部間共通総合講座の補助あり	
	15:00～18:00	教育支援TA(文学研究科)	ドイツ語	学部間共通総合講座の補助あり	
	12:00～15:00	商学部助手	会計学,論文指導		
	13:00～16:00	商学部助手	簿記学,会計学,論文指導		
15:00～18:00	商学部助手	マーケティング,論文指導			
10:00～13:00	文学部助手	演劇学レポート			
11:00～15:00	文学部助手	日本中世史史料購読			
12:00～14:00	文学部助手	西洋史原書講読,フランス語			
10:00～13:00	経営学部助手	経営学,非営利組織論			
金	12:30～13:00	文学部TA	演劇学レポート		
	17:00～18:00	文学部TA	日本文学(古代)		
	16:20～17:50	情報コミュニケーション学部TA	英語,ドイツ語,教職		
	12:00～18:00	教育支援TA(政治経済学研究科)	開発経済学,経済学	学部間共通総合講座の補助あり	
	13:00～16:00	教育支援TA(文学研究科)	ドイツ語,言語学,レポート指導	学部間共通総合講座の補助あり	
	15:30～18:00	教育支援TA(文学研究科)	日本近代文学,論文指導	学部間共通総合講座の補助あり	
	10:00～13:00	商学部助手	英語,マーケティング,論文指導		
10:00～13:00	経営学部助手	会計学,簿記			

2009年度 和泉学習支援室支援時間割

【前期】

曜日	支援科目	支援時間帯	
月	金融総論, 中国語, 論文指導	9:00~15:00	
	経済学, 統計学, 近代経済学, 論文指導	9:00~15:00	
	経営学	13:00~16:00	
	簿記論	13:00~15:00	
	日本語レポート, 韓国語	9:00~11:00	
	ドイツ語	10:00~19:00 (休憩あり)	
	英語全般	12:00~15:00	
	フランス語	10:00~15:00	
	日本近現代史史料講読	11:00~13:00	
	考古学レジュメ作成, 文献	9:00~14:30	
	西洋哲学史, 社会思想史, レポート指導	13:00~19:00 (授業支援あり)	
火	経済学, 近代経済学, 論文指導	9:00~12:00	
	経済史, 統計学, 貿易総論, 論文指導	12:00~15:00	
	中国語, 論文指導	10:00~16:00	
	経営学	10:00~12:00、13:00~15:00	
	簿記論	15:00~17:00	
	日本語レポート指導	10:00~17:30	
	演劇学レポート指導	9:00~12:00、14:30~16:00	
	中国語, 漢文指導	12:00~16:20	
	考古学レジュメ作成, 文献	12:00~18:00	
	日本古代史史料講読	15:00~17:00	
	英語, ジェンダー	10:40~12:10	
	基礎理工学, プログラミング	14:40~16:10	
	中国語	14:40~16:10	
	情報関係, PC全般	14:40~16:10	
	ドイツ語	10:00~16:00 (授業支援あり)	
	西洋哲学史, 社会思想史, レポート指導	14:30~17:00	
	漢文資料講読, レポート指導, 資格相談, 大学院進学相談	13:00~19:00 (授業支援あり)	
	水	経営学	11:00~17:00
		簿記論	13:00~17:00
		日本語レポート指導	15:00~16:00
英語全般, 資格英語指導 (TOEFL, TOEIC)		13:00~15:00	
フランス語発音・文法		10:00~15:00	
演劇学レポート指導		10:40~12:40	
日本近現代史史料講読		16:00~18:00	
西洋史原書講読, 史料演習補助		15:00~19:00	
考古学レジュメ作成, 文献		10:30~13:00、14:30~16:30	
ドイツ語, ドイツ文学, 留学相談 (ドイツ)		10:00~16:00 (授業支援あり)	
英語, 大学院進学相談		12:00~18:00 (授業支援あり)	

曜日	支援科目	支援時間帯
木	商業総論, 論文指導	13:30~16:30
	会计学総論, 簿記学, 論文指導	15:00~18:00
	貿易総論, 論文指導	9:00~13:00
	地理学, 論文指導	14:40~16:10 (休憩あり)
	経営学	13:00~15:00
	英語, 西洋史史料講読	13:00~19:00
	中国語/漢文講読	12:00~14:00、16:10~18:00
	韓国語	10:00~14:00
	日本語レポート指導	14:00~17:30
	英語全般	13:30~16:30
	日本近現代史史料講読	13:00~16:00
	日本近世史史料講読	12:30~17:30
金	商業総論, 朝鮮語, 論文指導	12:00~15:00
	経営学	10:00~12:00、13:00~17:00
	簿記論	11:00~13:00、15:00~17:00
	日本語レポート指導	9:00~11:00
	中国語, 論文指導	17:00~19:00
	フランス語発音, 文法	10:00~13:00
	日本近世史史料講読	10:00~12:00
	日本中世史資料講読	12:00~16:00
	西洋史原書講読, 史料演習補助	15:00~19:00
	簡単なワード, エクセル, レポート作成指導	10:00~16:00 (授業支援あり)
	経済学, 近代経済学, 統計学, 計量経済学	13:00~19:00 (授業支援あり)
	西洋史, 卒論作成, 英語, 留学相談 (英米), 資格英語指導 (TOEFL, TOEIC)	13:00~19:00 (授業支援あり)

2009年度 理工学部学習支援室（学習支援センター）時間割

【前期】

	月	火	水	木	金
1時限	10:20～11:50 (90分)				
		機械情報			
	基礎数学	基礎数学		基礎数学	基礎数学
	基礎物理	基礎物理		基礎物理	
		基礎化学			
2時限	12:05～12:50 (45分)				
	機械工学／建築	機械情報／建築	建築／情報科学	電子通信／機械情報	電気電子／機械工学／建築
	基礎数学	基礎数学	基礎数学	基礎数学	基礎数学
	基礎物理	基礎物理		基礎物理	基礎物理
		基礎化学	基礎化学	基礎化学	
3時限	13:00～14:30 (90分)				
				電子通信／機械情報	
	基礎数学	基礎数学	基礎数学	基礎数学	基礎数学
		基礎物理	基礎物理	基礎物理	基礎物理
		基礎化学			
4時限	14:40～16:10 (90分)				
		電子通信／機械工学			電気電子／機械工学／情報科学
	基礎数学	基礎数学	基礎数学	基礎数学	基礎数学
			基礎物理	基礎物理	基礎物理
	基礎化学	基礎化学		基礎化学	
5時限	16:15～17:00 (45分)				
		電気電子／電子通信／建築	情報科学		情報科学／電気電子
	基礎数学				基礎数学
		基礎物理			基礎物理
		基礎化学		基礎化学	

【後 期】

	月	火	水	木	金
10:20～11:50 (90分)					
1 時 限		電気電子 機械情報 建築			
	基礎数学	基礎数学			基礎数学
	基礎物理	基礎物理		基礎物理	基礎物理
		基礎化学			
12:05～12:50 (45分)					
2 時 限		電気電子 電子通信 機械情報/建築	情報科学 建築	機械情報 建築	電気電子
	基礎数学	基礎数学	基礎数学	基礎数学	基礎数学
	基礎物理		基礎物理	基礎物理	
		基礎化学			
13:00～14:30 (90分)					
3 時 限		機械工学			
	基礎数学	基礎数学	基礎数学	基礎数学	基礎数学
		基礎物理	基礎物理		基礎物理
			基礎化学		基礎化学
14:40～16:10 (90分)					
4 時 限		電子通信		機械情報	情報科学
	基礎数学	基礎数学	基礎数学		基礎数学
		基礎物理	基礎物理	基礎物理	基礎物理
	基礎化学	基礎化学		基礎化学	基礎化学
16:15～17:00 (45分)					
5 時 限		電子通信	情報科学		情報科学/電気電子
	基礎数学				基礎数学
		基礎物理	基礎物理		
	基礎化学				

2009年度 農学部学習支援室時間割

【前期】

	月		火		水	木	金		土
	生命科学科 TA4名(2交代)	食料環境政策学科 TA3名	農芸化学科 TA4名(2交代)	食料環境政策学科 TA3名	食料環境政策学科 TA3名	食料環境政策学科 TA6名	農学科 TA2名	食料環境政策学科 TA1名	TA不在
1限	自習室		自習室		自習室	自習室	自習室		自習室
2限	学習相談 11:00～		学習相談 11:00～	英語1年生 補習②	学習相談 11:00～	英語3年生補習 ミクロ経済学補習⑤	学習相談 11:00～		
昼休み	学習相談	よろず学習 相談	学習相談	よろず学習 相談	よろず学習 相談	よろず学習 相談	学習相談	よろず学習 相談	
3限		英語1年生 補習①		英語2年生 補習	ミクロ経済学 補習③	学習相談		—	
4限		ミクロ経済学 補習①		英語1年生補習③ ミクロ経済学補習②	ミクロ経済学 補習④	英語1年生 補習④		—	
5限		—		—	学習相談	ミクロ経済学 補習⑥		—	

※色付部分は、TAが対応

【後期】

	月		火		水	木	金		土
	生命科学科 TA4名(2交代)	食料環境政策学科 TA3名	農芸化学科 TA4名(2交代)	食料環境政策学科 TA4名	食料環境政策学科 TA2名	食料環境政策学科 TA3名	農学科 TA2名	食料環境政策学科 TA1名	TA不在
1限	自習室		自習室	マクロ経済学 補習②	自習室	自習室	自習室		自習室
2限	学習相談 11:00～		学習相談 11:00～	マクロ経済学 補習③	学習相談 11:00～	マクロ経済学 補習⑤	学習相談 11:00～		
昼休み	学習相談	よろず学習 相談	学習相談	よろず学習 相談	よろず学習 相談	よろず学習 相談	学習相談	よろず学習 相談	
3限		英語1年生補習① マクロ経済学補習①		英語2年生 補習	マクロ経済学 補習④	学習相談		—	
4限		—		—	—	—		—	
5限		—		—	—	学習相談		マクロ経済学 補習⑥	

※色付部分は、TAが対応

【学習支援室開室時間】

学習相談室 (1号館135)	月～金	11:00～18:00
フォローアップ室 (1号館136)	月～土	8:30～18:00

【TA在室時間】

学習相談室 (1号館135)	月～金	12:00～18:00※
----------------	-----	--------------

和泉学習支援室参考資料等一覧表

	書名
1	中日辞典
2	日中辞典
3	ロシア語辞典(旧版)
4	中国語辞典
5	日本古典文学大事典
6	新漢和大事典
7	古語大辞典
8	アジア歴史事典
9	中日大辞典
10	大漢和辞典
11	岩波イスラム辞典
12	中国歴史地図集(全8巻)
13	新字源
14	プログレッシブ英和中辞典(4版)
15	新イスラム事典
16	中国歴史研究入門
17	仏和大辞典
18	新フランス文法事典
19	くずし字用例辞典(普及版)
20	ロイヤル英文法
21	英語達人塾
22	研究社英米文学辞典
23	総合英語Forest
24	ロングマン
25	マクラミラン英英辞典
26	独和大辞典
27	はじめて学ぶアメリカ文学史
28	はじめて学ぶイギリス文学史
29	世界大地図帳
30	日独比較表現論序説—パラフレーズ翻訳のすすめ—
31	ドイツ語の基本 文法と練習
32	絶対わかるドイツ文法大百科
33	ドイツ語の手紙
34	ロベール仏和大辞典
35	クラウン西和辞典 三省堂2005
36	クラウン和西辞典 三省堂2005
37	西和中辞典 小学館1990
38	現代スペイン語辞典(改訂版)
39	スペイン・ポルトガルを知る事典(新訂増補版)
40	ラテンアメリカを知る事典(新訂増補版)
41	現代スペイン情報ハンドブック

	書名
42	スペイン語作文の方法—構文
43	スペイン文学史
44	スペイン・ポルトガル史
45	ラテン・アメリカ史。メキシコ・中央アメリカ・カリブ海
46	ラテン・アメリカ史「南アメリカ」
47	スペインの政治
48	スペインの経済
49	スペインの社会
50	話せるドイツ語会話
51	研究社露和辞典(携帯版)
52	研究社和露時点
53	コンサイス和露辞典
54	コンサイス露和辞典
55	ロシアを知る事典
56	レポートの書き方入門 慶應義塾
57	テキスト経営学—基礎から最新の理論まで
58	基本経営学用語辞典(4訂版)
59	経営管理
60	株式会社とは何か
61	組織とマネージメントの成立
62	コーポレート・ガバナンスの国際比較
63	日本経営史の基礎知識
64	NPOと新しい社会デザイン
65	日商簿記検定過去問題集3級出題パターンと解き方—2006年冬春対策用
66	日商簿記検定過去問題集2級出題パターンと解き方—2006年冬春対策用
67	経済学の世界
68	岩波 現代経済学事典
69	マクロ経済学
70	ミクロ経済学
71	(例題で学ぶ) 初歩からの経済学
72	基礎コース 経済学
73	新編英和活用大辞典
74	日本考古学事典
75	図解・日本の人類遺跡
76	考古学キーワード
77	考古学入門
78	シリーズ「遺跡を学ぶ」古墳時代の地域社会・三ツ寺 I 遺跡
79	” 鉄剣銘—十五文字の謎に迫る・埼玉古墳群
80	” 縄文の社会構造をのぞく・姥山遺跡
81	” 黒曜石の原産地を探る・鷹山遺跡群
82	埋蔵文化財発掘調査の手引き

農学部学習支援室参考資料等一覧表

◆書籍

分類	タイトル	著者／編集者／監修者	出版社
化学	スクエア 最新図説化学	佐野博敏・花房昭静	第一学習社
化学	ビギナーズ有機化学	川端 潤	化学同人
化学	ヴォート基礎生化学	D.VOET 他	東京化学同人
化学	ホートン生化学	H・Robert Horton 他	東京化学同人
化学	マクマリー有機化学(上)	JOHN McMURRY	東京化学同人
化学	マクマリー有機化学(中)	JOHN McMURRY	東京化学同人
化学	マクマリー有機化学(下)	JOHN McMURRY	東京化学同人
化学	生化学辞典	今堀和友 他	東京化学同人
経済	ゼミナール ミクロ経済学入門	岩田規久男	日本経済新聞社
経済	グラフィック ミクロ経済学	金屋貞男・吉田真理子	新世社
経済	演習ミクロ経済学	武隈慎一	新世社
ゲノム工学	ゲノム工学の基礎	野島博	東京化学同人
語学(英)	Updated and Revised READING		School Specialty Publishing
語学(英)	リーダーズ英和辞典	松田徳一郎 他	研究社
語学(英)	ライトハウス英和辞典	竹林 滋 他	研究社
語学(英)	ライトハウス和英辞典	竹林 滋 他	研究社
語学(英)	ジーニアス英和辞典	小西友七 他	大修館
語学(仏)	フランス語早わかり	猪狩廣志	三修社
語学(仏)	フランス語で123人の仲間広がる世界	立花英裕・井上たか子	駿河台出版社
語学(仏)	コレクションフランス語1	曾我祐典 他	白水社
語学(仏)	コレクションフランス語1	曾我祐典 他	白水社
語学(仏)	ディコ仏和辞典	宮原信 他	白水社
語学(仏)	クラウン仏和辞典	天羽均 他	三省堂
食品	食品学総論	吉田勉・早瀬文孝	三共出版
植物	テイツザイガー植物生理学	L.テイツ/E.ガイザー	培風館
植物	新しい植物ホルモンの科学	小柴共一・神谷勇治	講談社
植物	遺伝子組換え植物の光と影	山田康之・佐野浩	学会出版センター
生物	微生物学の基礎	服部勉	学会出版センター
生物	微生物の生態19	日本微生物生態学会	学会出版センター
生物	Essential 細胞生物学	Bruce Alberts 他	南江堂
農学	新版農学問題入門	田代洋一	大月書店

◆他

分類	タイトル	著者／編集者／監修者	出版社
化学	有機化学学生実習用セット		MARUZEN

各学習支援室利用状況データ



駿河台学習支援室 利用状況

【1】月別利用者数

年度	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	計
2006	21	27	18	14	2	17	5	16	8	128
2007	23	11	31	25	10	27	7	10	10	154
2008	10	17	34	24	7	25	10	16	7	150
2009	15	31	35	24	8	34	38	23	14	222

※2月,3月は閉室

【2】学部別利用者数

学部名	学部	院生	計
法学部	2	2	4
商学部	31	4	35
政治経済学部	18	4	22
文学部	94	39	133

学部名	学部	院生	計
経営学部	12	3	15
情報コミ学部	10	1	11
国際日本学部	0	0	0
その他	2	0	2
計	169	5	222

和泉学習支援室 利用状況

【1】月別利用者数

年度	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	計
2006	37	130	122	80	6	42	46	44	10	517
2007	49	95	204	253	39	107	127	126	102	1102
2008	39	106	257	221	9	68	101	63	90	954
2009	30	113	171	153	13	104	110	111	79	884

【2】各部別利用者数

学部名	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	計
法学部	0	1	3	5	2	6	4	7	3	31
商学部	10	12	37	39	2	20	39	26	18	203
政治経済学部	1	6	12	11	0	10	15	9	6	70
文学部	17	91	95	67	6	56	45	62	32	471
経営学部	2	1	10	16	1	5	2	2	10	49
情報コミ学部	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
国際日本学部	0	1	4	13	0	4	1	4	7	34
その他	0	1	10	2	2	3	4	1	1	24
計	30	113	171	153	13	104	110	111	79	884

【3】学年別利用者数

学年	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	計
1年	39	68	97	105	6	49	57	43	32	466
2年	20	38	61	43	6	42	45	54	36	345
3・4年	1	5	3	1	0	8	6	12	9	45
院生・その他	0	2	10	4	1	5	2	2	2	28
計	30	113	171	153	13	104	110	111	79	884

※2月,3月は閉室

理工学部学習支援室（学習支援センター）利用状況

【1】月別利用者数

年度	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	計
2006	212	217	249	241	24	95	103	52	108	1301
2007	131	291	354	424	46	199	103	74	171	1793
2008	113	266	272	381	14	171	115	53	164	1549
2009	114	251	273	470	15	111	130	92	199	1655

【2】学科別利用者数

学部名	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	計
電生	28	89	103	195	4	21	40	33	78	591
機械	13	18	24	53	1	8	16	8	27	166
機情	10	13	17	49	1	17	21	19	30	177
建築	6	4	11	21	0	5	3	6	4	60
応化	0	19	14	23	4	5	2	2	9	78
情報	1	8	13	15	0	1	2	3	7	50
数学	36	62	58	40	5	35	32	10	21	299
物理	18	37	32	74	0	14	14	13	19	221
不明	2	1	1	0	0	5	0	0	4	13
計	114	251	273	470	15	111	130	92	199	1655

【3】学年別利用者数

学年	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	計
1年	62	146	152	276	8	50	71	40	104	909
2年	33	77	99	135	6	44	48	37	70	549
3年	12	20	16	42	1	12	6	13	21	143
4年	7	8	4	17	0	4	5	2	4	51
不明・その他	0	0	2	0	0	1	0	0	0	3
計	114	251	273	470	15	111	130	92	199	1655

※2月,3月は閉室

農学部学習支援室 利用状況

【1】月別利用者数

年度	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	計
2006	35	158	145	176	18	147	71	72	158	980
2007	124	160	166	330	29	175	180	126	224	1494
2008	120	158	168	242	16	103	117	90	197	1211
2009	200	112	145	180	23	126	143	100	84	1113

【2】学科別利用者数

学部名	利用者数
農学科	11
農芸化学科	33
生命科学科	33
食料環境政策学科	546
不明・自習・その他	490
計	1113

【3】学年別利用者数

学年	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	計
1年	109	75	114	103	17	93	118	67	47	743
2年	6	6	11	44	2	12	19	15	17	132
3年	3	4	4	28	2	16	2	11	19	89
4年	0	0	3	5	2	5	4	7	1	27
不明・その他	82	27	13	0	0	0	0	0	0	122
計	200	112	145	180	23	126	143	100	84	1113

※2月,3月は閉室

おわりに

本大学に学習支援推進委員会が設置されて5年が経過しました。これまでに「学習支援室」は、大学の学習支援活動の柱に成長・定着してきました。とりわけ生田キャンパスの「学習支援室」は非常に利用者が多く、その機能を遺憾なく発揮しています。和泉キャンパスでも利用者は増えていますが、いっそうの機能強化と利用の呼びかけが必要です。駿河台キャンパスでは、利用者が僅少であったため、2009年度末をもって「学習支援室」は閉室することになりましたが、リバティタワーの改装などを視野に入れた駿河台の実情にあった学習支援の新たなあり方が検討されています。今後とも、本委員会では、学生諸君のニーズに応じた「学習支援室」の機能強化を図っていきます。

また、入試形態に応じた、入学者の要望にそったきめ細かい学習支援を充実させることが求められています。さらに、大学の国際化に対応してさまざまなレベルの留学生が確実に学習を進められるように本大学の態勢を整えることも喫緊の課題となっています。

勉学に励むということは学生一人一人の主体的な取り組みです。しかし、そうした主体的な取り組みに対して、大学がどのように組織的に支援するか、学生の勉学意欲をいっそう高めて学生の目標を達成させる有効な手助けをするか、ということは、現代の大学に課せられた重要な使命だと考えています。本委員会では、上記のさまざまな課題に対応するなかで、学生一人一人がより充実した学生生活を送れるように今後とも努力していきます。

学習支援推進委員会
副委員長 山田 朗

